仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」 第56号 令和7年5月発行

はたらくネット

広報紙「はたらくネット」では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者の取り組み事例を紹介しております。今号では、アイリスオーヤマ株式会社の取り組みをご紹介します。

●アイリスオーヤマ株式会社 ［仙台市青葉区］

取材させていただいた卸町ビル社屋

設　　立:1971年4月
代 表 者:代表取締役社長　大山晃弘
事業内容:生活用品の企画、製造、販売
雇用状況:全国で152名
うち身体障害　29名
うち知的障害　65名
うち精神障害　58名
（令和7年2月現在）

アイリスオーヤマ株式会社は、仙台市に本社を構える企業で、生活の身近にあるさまざまな商品の企画・製造・販売を行っています。

今回は、同社の「SP（スペシャルパートナー事業部）卸町」で働く、リーダーの鈴木　信さんと支援員の木村　優希さんにお話を伺いました。

会社のルーツと障害者雇用の今

鈴木さん　アイリスオーヤマ株式会社のルーツは 1958 年、東大阪で創業した「大山ブロー工業所」という町工場です。プラスチック製品の下請け加工から始まり、その後メーカーとなり事業拡張していく中で農業製品などの利用が多かった宮城県の大河原町に二つ目の拠点を設け、のちに本社を宮城県に移すことになりました。障害者雇用についても、大河原工場からスタートしました。

事業の拡大に伴い社員数も増加し、それに伴って障害のある方の雇用も増加したことから、障害のある方を支援しながらともに仕事を行う部署として 2004 年、SP 事業部を大河原工場に立ち上げました。現在では、全国 6 か所（大河原工場、卸町ビル、角田 I.T.P. 、埼玉工場、三田工場、鳥栖工場）に拠点が広がり、多くの障害のある方がそれぞれの特性や強みを活かして働いています。

SP（スペシャルパートナー）事業部卸町の取り組み

❶ SP 事業部卸町での作業

――SP 事業部卸町ではどのような仕事を行っているのですか。

鈴木さん　卸町では、わずか 1 名からのスタートでした。当初は、ビル 1 階にあった職員が食事をするラウンジで野菜や飲料、割りばし、紙コップの補充や片付けなど、ラウンジの運営業務を担っていました。そこから少しずつ業務を広

げていき、2024年12月時点では 34名のメンバーが働いています。作業としては、名刺作成、書類の仕分け、販促品の封入などの軽作業に加え、パソコンを使用したウェブサイトのカタログの校正、データ入力なども行っています。また、ビル内の緑化・清掃や、社員寮の清掃業務など、環境整備にも携わっています。

木村さん 基本的に SP 事業部では障害のある方と支援員とが一緒に業務を行っているのですが、パソコン業務に関しては、SP 事業部内での作業ではなく、依頼を受けた部署に行って支援員がつかずに作業に従事している方もいます。本人のスキルと希望、障害特性を踏まえて、他部署の職員から直接指示を受けて行う作業に従事してもらっています。

鈴木さん SP 事業部で働いているメンバーには、とても責任感の強い方が多いため、他部署で働く場合でもプレッシャーを感じすぎないように、「ノルマ」ではなく「目標」を設定して、段階的に業務に取り組んでもらうようにしています。活躍しているメンバーが多く、他部署から多くの依頼が寄せられています。

❷ コミュニケーションの活発な職場

――働いている方々の普段の様子を教えてください。

木村さん 日常の業務の中でよく見かけるのは、近しい業務を担当しているメンバー同士が、ショートカットキーの使い方や作業を効率よく進めるためのコツなどを自然と教え合っている姿です。とても前向きで、協力的な雰囲気がありますね。お互いに助け合いながらスキルアップしていく様子はとても頼もしいです。

鈴木さん 新しい業務をスタートする際は、業務開始前からメンバーにミーティングへ参加してもらいます。そうすることで、作業に入る前から流れや目的が把握でき、空白の時間が生まれず、先の見通しを持ったうえで取り組めるようになります。

さらに、ミーティングには複数人で参加してもらうようにしています。聞き漏らしやミスがあっても、お互いにフォローし合える環境をつくることで、みんなで安心して業務を進められるようにしています。

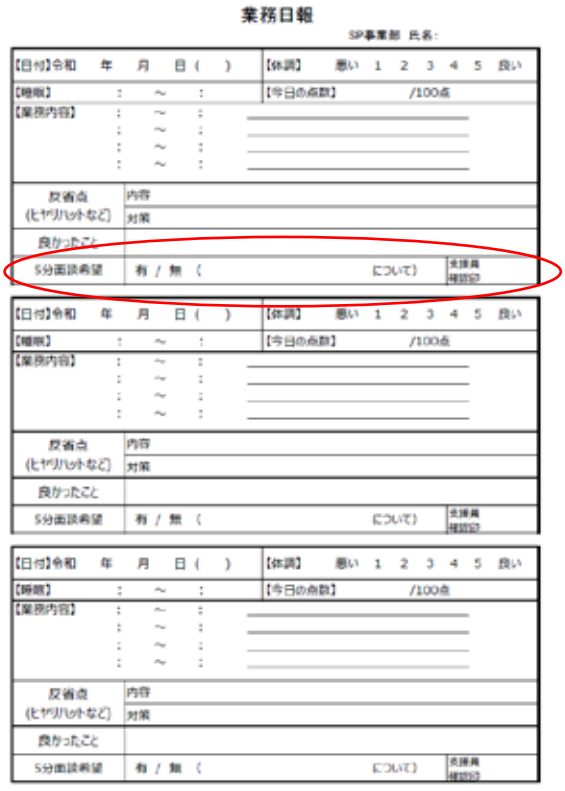
❸ 安心して働き続けられる職場づくり

――SP 事業部の支援員のお仕事について教えてください。

木村さん 現在、支援員及び支援員補助の7名体制で活動しています。この7名が、他部署とのやり取り、その中での業務の切り出し、メンバーへの説明、マニュアルの作成などを行っています。メンバーが業務に慣れるまでのサポートもしますし、繁忙期には、私たち支援員も一緒に手を動かして仕事をしています。

定着のための面談も支援員の大切な業務のひとつです。メンバーと「1on1 のミーティング」を月に1回程度実施しています。その中で、年度初めにはメンバーがそれぞれの目標を立てて業務に臨みますし、その目標に対して中間・年間での振り返りも行います。一人ひとりの成長や課題を支援員とメンバーで共有しています。

また、毎日の業務日報には、「面談の希望有・無」という欄を設けており、「ちょっと気になることがある」程度であっても希望「有」に〇をつけてもらえば面談を行います。その日のうちに時間が取れれば「5 分面談」というミニ面談を行います


業務日報

SP事業部 氏名:

【日付】令和 年 月 日 ( ) 【体調】 悪い 1 2 3 4 5 良い

【睡眠】 : ～ : 【今日の点数】 /100点

【業務内容】 : ～ :

: ～ :

: ～ :

: ～ :

反省点 内容

(ヒヤリハットなど) 対策

良かったこと

5分面談希望 有 / 無 (について) 支援員確認印

【日付】令和 年 月 日 ( ) 【体調】 悪い 1 2 3 4 5 良い

【睡眠】 : ～ : 【今日の点数】 /100点

【業務内容】 : ～ :

: ～ :

: ～ :

: ～ :

反省点 内容

(ヒヤリハットなど) 対策

良かったこと

5分面談希望 有 / 無 (について) 支援員確認印

【日付】令和 年 月 日 ( ) 【体調】 悪い 1 2 3 4 5 良い

【睡眠】 : ～ : 【今日の点数】 /100点

【業務内容】 : ～ :

: ～ :

: ～ :

: ～ :

反省点 内容

(ヒヤリハットなど) 対策

良かったこと

5分面談希望 有 / 無 (について) 支援員確認印

し、タイミングが合えば翌日には面談を実施します。「小さな悩みを小さいうちに解決すること」を大切にしています。

鈴木さん　メンバーのなかには、支援員が忙しくしていると話しかけづらくて、相談のタイミングを失ってしまうという方もいます。私たちは忙しくてもお話を聞くように心がけていますが、日報に面談希望有と書くことは、メンバーが相談することのハードルを下げているようです。

左から鈴木さん、A さん、木村さん

❹ 支援機関との連携

――支援機関との関わりについて、どのように感じていますか？

木村さん　ほとんどのメンバーが支援機関につながっている方です。勤怠が不安定になった時など、何かしらの課題が見えてきた際には、支援機関の方にご相談しています。会社と本人だけで話し合うよりも、これまで苦楽を共にしてきた支援機関の方からの言葉が、本人にとってより深く届くことがあるようです。

鈴木さん　私も、支援機関の方に入っていただくことで得られる視点の変化や、経験に基づく助言が非常にありがたいと感じています。私たちとはまた違った角度からのアドバイスをいただけることで、職場内だけでは気づけなかった部分にも気づくことができ、いつも心強く感じています。

❺ 他部署からの作業依頼の広がり

――卸町ビルでのパソコン支援業務が増えた背景について教えてください。

木村さん　立ち上げ当初は作業系の業務が2種類だけでしたが、近年は作業の自動化の流れもあり減少していきました。その一方で、卸町ビル内には購買部やシステム部があり、同じ建物内での業務のやり取りがしやすいことから、リーダーが働きかけてパソコン業務の切り出しを行ってきました。

鈴木さん　これまでメンバーが行ってきた業務の実績を説明しながら、まずは一定期間の「テスト業務」としての業務を受けて、支援員も一緒に作業に入りながらマニュアルを作り、それからメンバーに作業をしてもらい、依頼部署からの評価を受けて次へつなげていく、そういったいわゆる「営業」を行いました。

木村さん　パソコン操作が得意なメンバーが入ってくれたことも、大きな理由の一つです。メンバーのスキルがあって、この業務が引き受けられるという考えで、業務の幅が広がってきた部分もあります。

鈴木さん　実は、他にも切り出したもののまだメンバーにお願いしていない業務もいくつかあります。マニュアルの整備や業務のスタート時期などを考え、メンバーの負担が重くなりすぎないように全体をコントロールしています。営業をしすぎると、業務が増えすぎてしまうことも考えられ、加減の難しいところもあります。

――卸町ビル以外からの依頼もあるのでしょうか。

木村さん　卸町ビルだけでなく、角田 I.T.P.や県外のオフィスなど、他の拠点からも業務依頼が寄せられています。

鈴木さん　卸町ビルの SP 事業部は、多くのパソコン支援業務を担っている唯一の拠点です。これは、日々取り組んでいるメンバーのみなさんの努力のたまものだと思っています。

鈴木さん　マニュアル作りについては、メンバー同士で「この説明はわかりづらい」「こっちの方が伝わる」など意見を出し合い、こちらにフィードバックをくれます。その都度、マニュアルを更新して、より使いやすいものにしています。

木村さん　こちらが「これで伝わるだろう」と思って作ったマニュアルでも、実際にメンバーが業務に入るとイメージが湧きづらいこともあるようです。マニュアルを使う側としっかり認識をすり合わせながら、作っていくことが大切だと思っています。

鈴木さん　ありがたいことに、SP 事業部で作成したマニュアルが「非常にわかりやすい」と他部署から高く評価され、実際に活用してくださっている部署もあります。とても嬉しいことです。

令和5年10月から働いているAさんに聞きました

――働き始めたきっかけを教えてください。

前職を会社都合で退職した後、はたらポート仙台の支援を受けて求職活動を始めました。支援員の方からアイリスオーヤマの求人を教えてもらい、見学・実習に参加しました。実習で良い評価をいただいたので、面接を受け入社が決まりました。

――現在はどのようなお仕事をしていますか？

パソコンを使ったデータ確認や請求書のチェック、物流部門での出荷準備やピッキング作業などです。体を動かす作業は楽しいです。

――仕事をする中で大変だと感じることはありますか？

大変なことは、座り作業の時の集中力の維持と眠気対策です。目が疲れたときは遠くを見たり、眠気には飲み物を飲んだり、深呼吸をしたりしています。また、わかっていないのに反射的に「はい」と返事をしてしまう癖があり、後で困ってしまうことがあります。支援員の方と話し合っていますが、まだ改善が難しい課題です。

――仕事の中で嬉しかったことや楽しいと感じることはありますか？

いろいろな作業を経験させてもらえて自分のスキルになっていると思います。働きながらスキルアップできることが楽しいです。また、お給料を貯めて旅行に行くことが楽しみになっています。

――これからの目標を教えてください。

健康で長く安定して働き続けることです。そのために、日々の小さな課題の改善を積み上げていきたいと思っています。

――これから働きたいと考えている方にメッセージをお願いします。

社会に出ると、新しく覚えなければならないことがたくさんあります。就労移行支援事業所や学校では教わらないことも多くあります。頑張ることはとても良いことですが、無理をしすぎないことが大切です。自分自身の限界を超えない範囲で頑張ることが、長続きには大切だと思います。周囲の助けを借りながら、自分に合った仕事や環境を探してみてください。

＊ 最後に、障害者雇用に取り組もうとしている企業へのメッセージをお願いします。

鈴木さん 実際に一緒に働いてみると、一人ひとりの個性や人柄が見えてきます。障害のある・なしに関係なく、誰でも得意なことや不得意なことがあります。ですから、障害者という枠にとらわれるのではなく、一人の社員として向き合っていただけたら、とても良い関係が築けるのではないかと思います。

また、困ったことがあった時には、無理をせず支援機関を活用することも大切です。課題を共有しながら解決を図ることで、障害者雇用はより前向きに、安定して進めていけるものだと思います。

はたらポート仙台

＊ご愛読いただきありがとうございます。ご意見ご感想などございましたらぜひお寄せください（次のQRコードからどうぞ）

発　行：仙台市障害者就労支援センター
（指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）
住　所：仙台市泉区泉中央２丁目1－1 仙台市泉区役所東庁舎5階
電　話：022－772－5517　FAX：022－772－5519
Mail：hataraport@sendai-wsc.jp　HP：https://www.sendai-wsc.jp